

平成24年度八重山群島病害虫発生予報第8号(11月予報)

I 11月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	30
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	30	30

(平成24年10月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.1	156.5	115.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

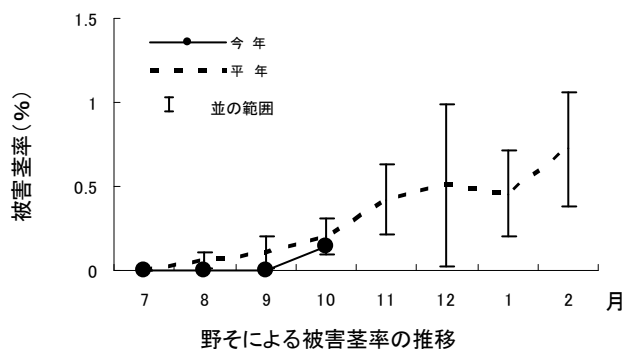
II 11月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

(1) 野そ

発生程度 : 並

10月下旬の調査の結果、被害茎率は0.1%(前年0%、平年0.2%)と平年並であった。

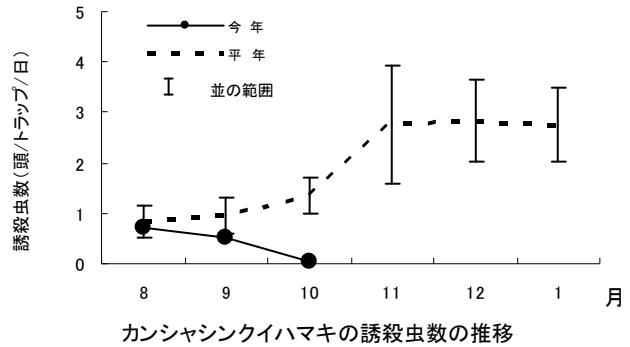
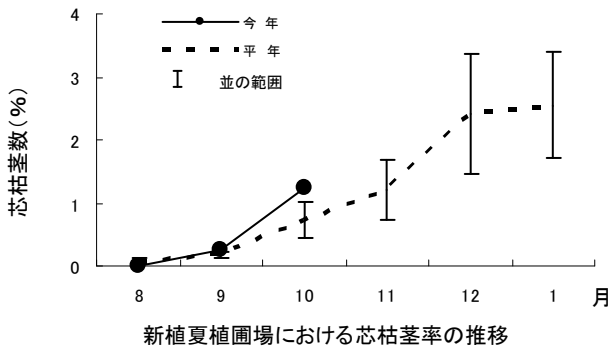


<防除上注意すべき事項>

- a 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- b 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 10月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は1.2%(平年0.7%、前年1.0%)と平年よりやや多かった。
- b 10月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭未満(前年0.8頭、平年1.4頭)と平年より少なかった。

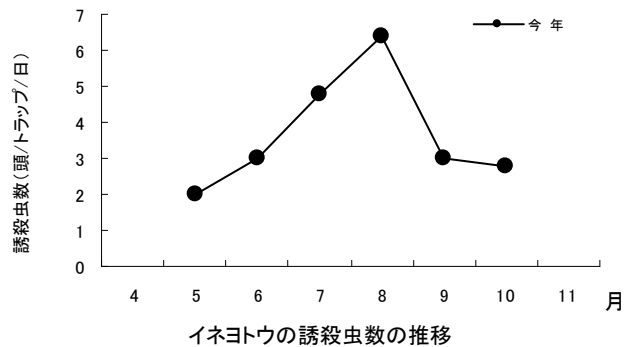
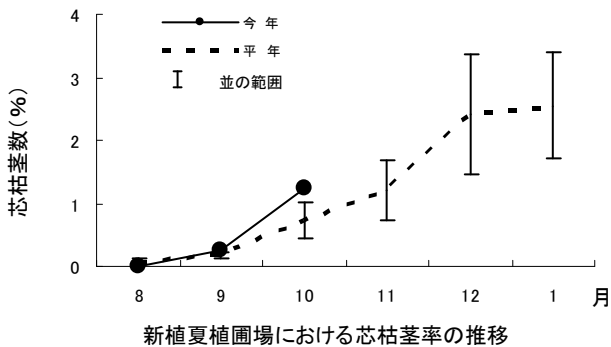


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 10月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は1.2%(平年0.7%、前年1.0%)と平年よりやや多かった。
- b 10月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.8頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

2 かぼちゃ

○ 定植時および生育初期の病害虫防除対策

- a ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、コナジラミ類、ハモグリバエ類などの防除対策として、定植時に粒剤を施用する。
- b 害虫の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
- c ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。